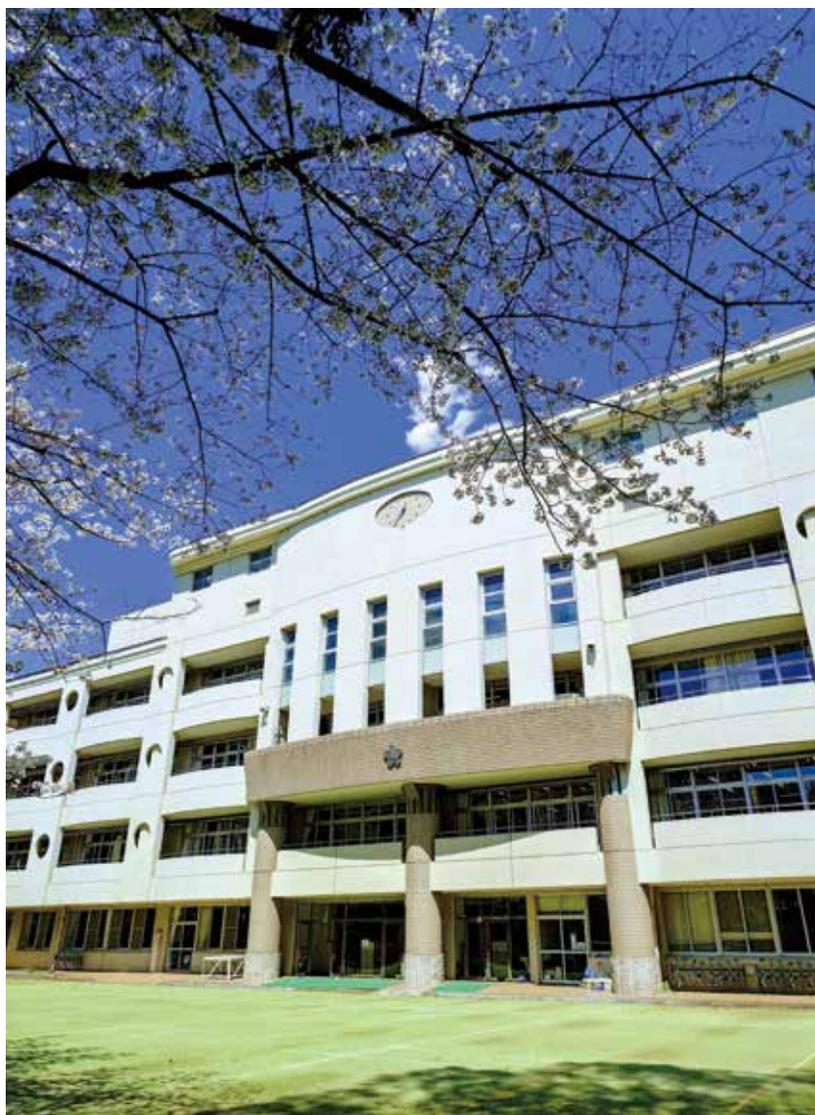


文京人



文京区立昭和小学校

文京人インタビュー

鳳明館総支配人

大曾根 美代子さんに聴く

老舗旅館の女将がみてきた 本郷の歴史

まず鳳明館の創業について
教えてください

大曾根 祖父が生まれた岐阜県西美濃では頻繁に木曾三川が氾濫し、助け合わないと生きていけないという意識が強い地域でした。本郷で旅館を営んでいた親戚を頼って、祖父は上京して下宿屋から始めたそうです。その恩を継いで、兄弟姉妹が上京するのを助けてきました。本郷

の下宿・旅館街の経営者の半数以上は岐阜県出身だそうです。

鳳明館には3つの建物が
あるのですね

大曾根 本館は明治31(1898)年に下宿として建てられたものを、昭和11(1936)年に祖父が買い取りました。そして戦後に下宿から旅館に改築しまし

た。意匠を凝らした客間や風呂が特徴で、国登録有形文化財になっています。

自宅として昭和26(1951)年に新築し、私が育った家は、旅館に改築されて台町別館となっています。修学旅行等の団体客が増えたので、森川別館を昭和31(1956)年に建てました。3軒とも本郷にあります。

祖父は建築が大好きな普請道楽(ふしんどうらく)でして、自ら色々な銘木を



買い集めて、職人と一緒になって楽しみながら建てたので、3館とも各部屋はそれぞれ遊び心があふれるデザインになっています。縁起物も色々隠されていて、見て回ると楽しいですよ。

ちなみに私の一押しは、独創的でユーモラスな森川別館の「河」童の障子飾り。造り手の心意気が凝縮しています。

**ご自身が女将を継いだ
きっかけなど教えてください**



龍宮風呂(本館)の壁のタイルに海底魚が泳ぐ様子が描かれている



鳳明館と縁が深い法政大学の学生さんが森川別館ローマ風呂を見学する様子



ひょうたん風呂(本館)

大曾根 旅館は兄たちが継ぎました。私は銀行に就職して結婚退社後に、夫と一緒にアメリカに住んでいました。母の介護で帰国後、社長をしていた兄に頼まれて、森川別館で女将の穴埋めとして働き始めました。

母のような女将にはなれないと最初は劣等感を感じていました。ザ・女将の母は、お客様には常に笑顔、いくつになっ

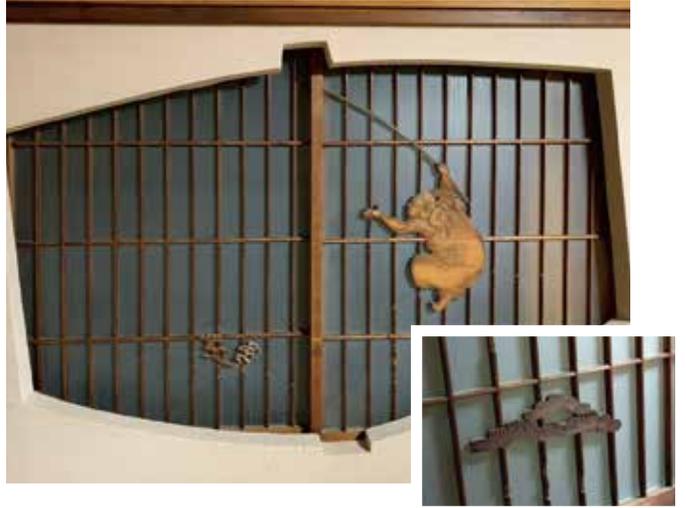
てもチャームキングな働き者で忍耐強く肝っ玉がすわっていました。仕事が大変と愚痴を言うことや、慌ててバタバタすること、動揺している姿、落ち込んで暗い表情を見たことはありません。

私は、母のような女将的リーダーシップを諦めて、社員達、同僚のボトムアップ方式にしようと割り切ってから気持ちが悪くなりました。また「母がしなかったことで私ができることに励む」と決めて、旅館の仕事にやりがいを感じるようになりました。それは森川別館のPRです。フェイスブックを始めするなど森川別館の魅力を紹介しはじめて、そのために本郷の歴史を学ぶことで、より鳳明館の素晴らしさを認識するようになりました。女将として母のような器はありませんが、母の愛嬌と社員である同僚を思いやる気持ちは受け継ぐように心がけています。

**ところが旅館廃業の危機を
むかえたのですね**



縁起物・招福、意匠を凝らした設え



台町別館の廊下



本館客室



文京建築会ユースによる本郷旅館街の小冊子を紹介する大曾根さん

大曾根 私の子供の頃には本郷に50軒近くあった旅館が、今は鳳明館3館を含めて4軒しか残っていないのです。さらにコロナの影響で修学旅行者客がゼロになってしまいました。2021年5月から一時休業し、兄たちは旅館を廃業して大手デイベロップパーへの売却を決定しました。まさに廃業寸前。

ていました。この若い人たちが真剣に考え奔走してくれ、地元の総合建設業である(株)松下産業とつないで、2022年4月に事業承継が決まりました。私は引き継ぎとして雇われました。

今は、どういう形なのですか

大曾根 既存の建物やオリジナルの意匠をなるべく残しながら、宿泊施設としてリニューアルするには準備検討に時間がかかります。その間に無理のない範囲で

旅館を楽しんでいただけるように、日帰り利用のみにて営業しています。

旅館イコール宿泊ではなく日帰り利用としてスペースレンタルやイベント開催や協力、旅館見学など積極的に取り組んでおります。例えば近くの大学などとコラボして、「鳳明館東大落研寄席」「昼下りの文学会（読書会）」「下町サミット in 文京区」「旅館 de お酒を嗜む会」などを今まで実施してきました。

地域の多世代交流を目的にしたイベントを開催することで、私個人も地元の方々とのネットワークが広がり、地域での生活が楽しくなり、シニア生活に安心感が強まりました。

文京区にお住いの皆様へのメッセージをお願いします

大曾根 鳳明館では様々なイベントで、古き良き旅館、非日常的空間を気軽に体験頂くことができますので、是非お気軽にご来館ください。



寄席 東京大学落語研究会



下町サミット in 文京区



まるまる
文京〇〇横丁 in 鳳明館 ~旅館 de お酒を嗜む会~旅館 de お酒を嗜む会

私は鳳明館の仕事を通じて文の京の歴史に出会うことで文京区により愛着が深まり、暮らしが楽しくなりました。文豪が愛した街として親しまれてきたので、本郷下宿・旅館街が発展してきたのは同郷の人達による強い共助が礎となっています。こういった地域の歴史を共有すること、地域に向ける愛着こそ地域の人々を繋げる原動力と思っています。

私は鳳明館の伝統的旅館建築の面白さを実感することにより、文化財保存活用 の大切さに目覚めました。この想いが文

京区の皆様に少しでも伝わることを願っています。



鳳明館（本館）

文京区本郷 5-10-5

☎ 03-3811-1181

✉ info@homeikan.com



本郷東大赤門前 法真寺内
カフェ銀時計

佐久間 憲子さん

居心地のよい空間で
愛情込めたお食事を

店内バリアフリー車椅子やベビーカーも大歓迎※テラス席のみペット同伴可

東大赤門の向いの通り、細い道を入ったところに、樋口一葉が幼少時の五年間を隣りで暮らしたゆかりの寺、法真寺がある。そこに心癒される寺カフェがあるという。いい所だよと聞き訪ねてみた。



めあての「カフェ銀時計」は境内の奥のひっそりした所にあり、想像していたよりも重厚な建物、質の高い雰囲気であった。また、手間を惜しまず丁寧なコーヒーや料理を提供する店だった。

店名の「銀時計」は恩賜の銀時計に由来する。昔ここには東大の学生寮があった。その寮生の中に優秀な成績で卒業式に天皇陛下から褒賞の銀時計を下賜される人が続き、銀時計寮と呼ばれたそう。

この店は母と娘の二人で営んでいる。調理は主に母親の佐久間憲子さん、接客

や全体を見るのは、店長で娘の上原優子さんが受け持っている。二人共静かに過ごしたい人の為に控え目に対応してくれるので落ちつける。

「頼まれて手伝っている」と言う佐久間さんにこの店ができた経緯を尋ねた。法真寺の建物であまり使われずもったいない広いホールがあった。それを、誰もが癒される寺カフェにしようと住職、副住職の発案で改装し、センスの良い家具を選んでこの店を設えた。そこでもてなすコーヒーや料理を誰に頼むかで佐久間さんに声がかかったということだ。

佐久間さんは先祖の代からすぐそばに住む壇家で、地域の為に特技を生かして奉仕してきた。母親の代から続くおいしい料理の腕前は、多くの人を喜ばせ、場を和ませてきた。20歳で結婚して三人の娘を育てあげたが、料理名人の母と、赤飯は天下一品の義母の二人から、手間暇かけて作るおふくろの味を習い、今も食への関心が高い。食材にこだわり愛情込めて丁寧に作るのがおかあさんのご飯だ



クロッフルプレート(上)
昔懐かしいナポリタン
と固めのプリン

と考える。店でも食べる人の身になって
それを実践している。いい生き方だなあ
と思った。家族や周囲を思いやり、愛情
深く支える頼もしい人だ。
三女の優子さんも、有名ホテルでのレ
ストラン勤務の経験を生かしてやってみ
たいと言う。そこで、二人で引き受ける
ことにした。準備期間にメニューの試食、
コーヒー豆の選定、使いやすい食器選
びをして二年前に開店した。
最初はハムと卵の昔ながらのサンド
イッチ、ナポリタン、濃厚プリン等の軽
食中心だったがランチも始めた。佐久間

大人気!お弁当箱に詰まった数量限定の日替わりメニュー
のランチは、栄養もボリュームたっぷり。



さん手作りのお弁当は、メインのおかず
の脇に、胡麻和え、煮浸し、切干大根の
煮物等、滋味豊かな副菜が添えられ、こ
れまで残した人は一人もないそうだ。
自慢のホットコーヒーをいただいた。
大阪で100年以上続くコーヒー豆の専
門店のブレンドだそう。濃さとまろやか
さ、程良い酸味と苦味が調和して本当に
うまい。「量販店より値段は高めでも、良
い品をゆっくり味わってほしい」と言う。



カフェ銀時計

〒113-0033 文京区本郷5丁目27-11

☎03-3813-8241

営業時間：10:30～16:00

※定休日：土・日・月・年末年始

効率重視の世の中だが、時には頭を休
めるゆとりの時間も必要だ。日常から離
れて気持ちがあぐれた。新しい名所を発
見した心地がした。誰でも入れる「カフェ
銀時計」をぜひ一度訪れて、日頃の疲れ
を癒してほしい。



日替わりメニューは
Instagramの
ストーリーより
@cafe_gindokei

ご挨拶

皆さまのおかげをもちまして地縁の輪の活動は2年目を迎えました。皆さまの温かいご支援と笑顔が、私たちの活動の原動力です。昨年度は PLACE SUIDO やみつばちプロジェクト、子ども食堂、地域交流イベントなどへのご参加とご協力をありがとうございました。これからも“まちの居場所”を広げ、人と人とのつながりを育み、ふるさと文京がさらに暮らしやすくなるよう、心を込めて歩んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

NPO 法人 地縁の輪（ちえのわ）スタッフ一同より



ワクワクして待っていると運ばれ来たカレーに「わあ!おいしそう」

2025年6月29日(日)、文京区音羽のカフェ「Cafe Tweedia」で「子ども食堂」が開催されました。これはNPO法人「地縁の輪」のイベントと障害者支援施設「リアン文京」の共催イベントで、今回が3回目。高校生までの子どもは無料、大人は300円で手づくりのカレーライスとヨーグルトゼリーがいただけます。

11時の開店前から並んでいたお年寄りには「ここのカレー、おいしいのよ」と待ちきれない様子。お店がオープンすると、近所の親子連れや学生、シニアなど幅広い年齢層のお客さんが続々と入店。あっという間に満席となり、店内のあちこちからにぎやかな会話が聞こえてきます。用意した50食は、午後1時過ぎには完売。「おいしかった!」「また来たいね」とみんな笑顔でお店を後にしていました。

カレーを作ってくれたのは、管理栄養士の折原由美子さん。「朝6時半から仕込み、子どもも食べやすいよう甘口に仕上げました。名前は子ども食堂ですが、子どもからシニアまで誰でも大歓迎です。



子ども食堂イベントのポスター



管理栄養士の折原由美子さん



大盛況で大忙しの3名のボランティアスタッフさん

おいしいものを食べながら、知らない人同士もワイワイと楽しんでいただくと地域との絆をつくっていきたくと考えています。今日のスタッフには『何か手伝えることない?』と申し出てくれたボランティアの方が3名います。地域や、人のために何かやりたい方に活動の場を提供することも、地域の絆づくりのひとつだと思っています」と、折原さん。

今後は、3ヶ月に1回の実施を目標に頑張っていくそうです。開催1か月くらい前から「Cafe Tweedia」



「おいし〜い」とパクパクあつという間に完食



具だくさんの
まろやかカレー

お問い合わせ先は
裏表紙の広告欄にて

の店頭ポスターで告知されるので、お見逃しなく。

今回の子ども食堂は「かみつぐ助成金」(故・上継弘子さんの遺贈による助成金)を受けて実現しました。「地縁の輪」イベント部では、ほかにも2026年3月までに20近いイベントを開催予定です。昭和から令和のいろいろな遊びを体験できる「あそびの祭典」やクラフト教室など多彩なイベントを企画中なので、ぜひ足をお運びください。

人も駄菓子も

「ごちやませ」

だから楽しいね



令

和五年こどもの日から文京区水道
PLACE SUIDO2で営業

が始まった『駄菓子屋さん』。二年を経
てすっかり近隣のこども達に馴染みのあ
る店になっています。今は昭和レトロ
ブームと言うこともあり、保護者たちも
楽しめる空間です。店内の壁側に懐かし
い駄菓子が所狭しと並び、金額も昔と変
わらず十円から百円程度。昔と違うの
は、靴を脱いで上がるスタイルで清潔で
綺麗。そして、ちよっと怖いおばちゃん
がいないこと。この日おばちゃんの代わ
りにお店を切り盛りしていたのは、福祉
センターの助っ人職員の川延さんと、特
別支援学校を卒業し、『Berin(ビー
リン)』の名称で活動している出張ボラ
ンティアグループの一人、宮澤さんでした。
店内では、「これとこれにする」「パ
パにはこれ。僕のはこれだよ」「当

たりくじがしたい。2番が欲しいんだ！
と、小さなかごを手に可愛い声が飛び交
います。川延さんが、かごから溢れん
ばかりの駄菓子をあつという間に計算し、
「たくさんありがとね。五百円です」と
硬貨を受け取り、宮澤さんがニコニコし
ながら袋にお菓子を詰め、「ありがと
と子供に渡します。」



たくさんあって迷っちゃう「アレもコレも欲しい」



↑宮澤さん(左)
川延さん(右)

←佐藤さん

福 施設の職員でこの店の束ね
役の佐藤さんは話します。

この駄菓子屋は、最初リアンの中で開催していて、ノウハウが蓄積されてからこの場所でも週一回やるようになりました。最初の目的は買い物を通して多世代間の交流の場と障がい者の活動する場の提供でした。二年が経ち、スタッフとしてBerinのメンバー二人が自発的に店頭に立ってくれています。お客さんの方は、保育園の帰りに保護者と来ていた子供たちが小学生になり、友達と来てスタッフに学校の話なんか



駄菓子を見てるだけで大人は子どもの頃を思い出す

をしようになりました。親に話せないこととかね。この風景がとても嬉しい多様性という言葉が流行っていますが私は『ごちやませ』という言葉が好きです。様々な人が垣根なく、自然に関われる空間が提供できてきたと思います。

皆 が笑顔になれる場所がここだけでなく、活躍の場をもっと他にも広げたいですね。以前老人ホームに呼ばれて出前に行ったりしました。日程さえ合えば、車一台でどこにでも行きます。今は週一回しか開いていませんが、開店日も増やしたいですね。ボランティアの方

をお手伝い頂ければいいのですが、お金を扱うので、そこが難しいところです。スタッフの宮澤さんに「仕事が終わってからここを手伝うのは大変ですね」と声をかけると、満面の笑顔で「楽しいです。ここで元気をもらっています。みんな喜んでくれるし、明日も頑張ろうと思います」と、頼もしい返事が返ってきました。

ス タッフの宮澤さんに「仕事が終わってからここを手伝うのは大変ですね」と声をかけると、満面の笑顔で「楽しいです。ここで元気をもらっています。みんな喜んでくれるし、明日も頑張ろうと思います」と、頼もしい返事が返ってきました。

保 護者も子供たちと駄菓子を選びながら、「これは私の分。晩酌のつまみにします」保護者にとっても子育ての疲れを癒し、明日の活力になる場所の様です。

笑 顔溢れるこの場所の開店日は、週一回木曜日、四時半から六時半まで。毎回60名程のお客さんが訪れます。老若男女どなたでも大歓迎だそう。ごちやませメンバーになって駄菓子を選ぶワクワク感を体験しませんか。おまけは明日の活力です。

PLACE SUIDO-2

〒112-0005 東京都文京区水道 2-10-18
<https://chienowa-npo.com/>



■表紙の写真

〈国は日の本 桜咲く国 日の照るもとに身を鍛え 身を鍛え…〉



文京区立昭和小学校

の校歌の一節です。

昭和の古き良き時代の余韻を遺しながら戦中戦後を潜り抜け、今も子供たちに歌いつがれています。

昭和4年創立、現在の校舎は平成8年に竣工され、令和5年度には開校95周年を迎えました。現在はオープンスペース、開閉式屋根付き屋上などの最先端の施設・設備を有効に活用した環境で学んでいます。学校の沿革や歴史が各階のフロアに開示されており、ちょっとした資料館のようです。

同校の地の利を生かしながら親から子、孫へという歴史の中で生まれ育った群像は初等教育を牽引していく存在でもあります。

■写真提供（敬称略）

昭和小学校（表紙） 旅館 鳳明館（本文） / カフェ銀時計（本文）

Café Tweedia

〒112-0013 文京区音羽 1-2-18 1階
TEL:090-7555-0866



地域のだれもが気軽に立ち寄れる場所です。コーヒーやジュースなど400円程度インスタ始めました！



広告募集

文京人に
広告を掲載しませんか

詳細は編集部までメールでお問い合わせください。

文京区の人と地域をつなぐ情報誌

文京人（ぶんきょうじん）第九号

題字：上村正子

企画編集『文京人』編集部

発行：NPO 法人 地縁の輪

発行日：2025年12月30日



お問い合わせ先：

社会福祉法人武蔵野会

文京福祉センター江戸川橋

電話：03-5940-2901

edogawabashi@team-lien.com



無断転載禁止

職員募集

リアン文京は多世代の方に
ご利用いただく福祉の
都市型複合施設です。
ご利用者と笑顔になれる職場で
一緒に働いてみませんか？
ぜひお問合せください。



リアン文京は、
NPO法人地縁の輪と一緒に
文京の地域に貢献していきます。

社会福祉法人武蔵野会 リアン文京

〒112-0006 文京区小日向 2-16-15 ☎03-5940-2822 〆03-5940-2823
担当：野村・渡部 <https://team-lien.com>